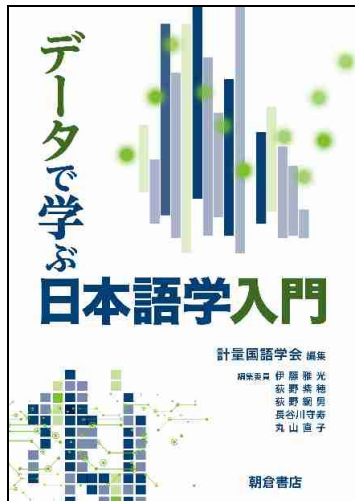


計量国語学会創立 60 周年記念出版

『データで学ぶ日本語学入門』 刊行のお知らせ

伊藤 雅光 (大正大学)



計量国語学会編集／編集委員 伊藤雅光・荻野紫穂・
荻野綱男・長谷川守寿・丸山直子

『データで学ぶ日本語学入門』朝倉書店
A5／168 ページ／2017 年 3 月 10 日発行
ISBN978-4-254-51050-8
定価 2,808 円 (本体 2,600 円＋税)

*会員限定で 15%引きの 2,387 円でご購入できます。
送料無料、冊数制限なし、申込期限は 2018.3.31 ま
で。詳しくは『計量国語学』31 巻 1 号編集後記をご
覧下さい。

計量国語学会の創立 50 周年記念出版として、2009 年に『計量国語学事典』が朝倉書店から刊行された。その内容は計量国語学の各分野のこれまでの研究の流れと最新の研究成果の解説から構成されている。同書は研究者には計量国語学の展望が得られるということで好評を博し、初版は 3 ヶ月で在庫がなくなった。しかし、初心者とりわけ文系の学生にとっては理解しがたい内容が含まれていたことも事実である。

その点も考慮に入れて創立 60 周年記念出版として企画されたのが本書である。本書はまったく統計的な知識がない初心者でも統計の基礎を独学で学ぶことができ、さらに計量国語学の各分野の基礎的事項も理解できるように配慮し、かつりポートや論文の作成に応用できることを目的として作成された。内容は以下のとおりである。

第 1 章 音声・音韻—現代の日本語には何種類の音があるの? 【岡田祥平】

どの音がよく使用されているの?

- 1.1 母音と子音、半母音
- 1.2 モーラ
- 1.3 音声言語に出現したモーラと書記言語に出現したモーラ

第 2 章 文字・表記—文字と社会生活はどのようにかわるの? 【横山詔一】

- 2.1 文字環境という考え方
- 2.2 延べと異なり
- 2.3 漢字含有率
- 2.4 カバー率
- 2.5 文字表記に関する人間心理

第 3 章 語彙—日本語にはどんな言葉が多いの? 【山崎 誠】

- 3.1 計量語彙論
- 3.2 語彙量の実態
- 3.3 意味分野と語彙
- 3.4 基本語彙と特徴語
- 3.5 語彙の変化
- 3.6 語彙研究に役立つ言語資料
- 第4章 文法・意味—文法現象をデータで見るとどうということ？ **【丸山直子】**
 - 4.1 「文法」とは？
 - 4.2 時代による変遷、同時代の使用のゆれ
 - 4.3 分野による相違、使用者による相違
 - 4.4 文法現象を数値化することの意味
- 第5章 文章・文体—文章と文体の個性は数ではかれるの？ **【伊藤雅光】**
 - 5.1 品詞比率から文体の特徴を判定する
 - 5.2 文章と文体
 - 5.3 文章の個性をはかる—文章指標・MVR とは何か
 - 5.4 目的別の文章・文体の計量的研究
- 第6章 社会言語学—人によってことばの使い方はどうちがうの？ **【荻野綱男】**
 - 6.1 話し手の属性差—年齢差
 - 6.2 話し手の属性差—男女差
 - 6.3 聞き手の属性差—聞き手敬語のとらえ方
 - 6.4 社会言語学の考え方と計量的な見方
- 第7章 方言—関西人は「いつでもどこでも関西弁」って本当？ **【田中ゆかり】**
 - 7.1 「方言」とは何か？
 - 7.2 計量的な手法を用いた「方言」研究
- 第8章 日本語史—昔といまでは「ことば」がちがう？ **【田中牧郎】**
 - 8.1 古典語の語彙調査
 - 8.2 『日本語歴史コーパス』について
 - 8.3 『今昔物語集』に見る文体の違いによる語種構成比率の違い
 - 8.4 話しことばに基盤を置く文章における語彙の変遷
 - 8.5 どのような漢語が増えたのか—品詞の観点から
- 第9章 日本語教育—日本語学習者の日本語は、母語話者と、どこがちがうの？ **【長谷川守寿】**
 - 9.1 豆腐はいつでも「売っていますから」？ 「売っているから」？
 - 9.2 「借してくれない？」
 - 9.3 「何も食べません」「何も食べないです」、どちらをよく使いますか？
- 第10章 日本語処理—文書の類似度や重要性をコンピュータはどのように計算しているの？ **【荻野紫穂・白井英俊】**
 - 10.1 一般的な自然言語処理の段階—形態素解析から文脈解析まで
 - 10.2 情報検索・文書検索の仕組み

- 10.3 情報検索で用いられる「特徴」とは—BoW 表現と単語文書行列
- 10.4 単語文書行列と文書の類似度
- 10.5 単語の重要度をどのように決めるか—TF-IDF 法
- 10.6 ニューラルネットワークと自然言語処理
- 10.7 コーパスとプログラミング言語

付録 A ことばの統計学入門

【伊藤雅光】

- 1. 統計が得意なこと
- 2. 品詞の度数分布表 (質的データ)
- 3. 語長の度数分布表 (量的データ 1)
- 4. 基本統計量
- 5. 文長の度数分布表 (量的データ 2)

付録 B コンピュータは日本語をどう扱うか

【荻野紫穂

- 1. 日本語の文字をコンピュータでどのように表現しているか
- 2. 統計と確率による自然言語処理
- 3. 構文解析・係り受け解析
- 4. ニューラルネットワークと自然言語処理
- 5. コーパスとプログラミング言語

・白井英俊】

さらなる学習のための参考文献

索引

計量国語学は統計的な調査・研究方法を全面的に採用している点に特徴がある。なぜ統計学を採用したかという点、その方法がもっとも科学的な方法だからである。現在の自然科学のどの分野も統計学を採用したことにより科学になったといわれている。

戦前までの国語学は国文学の補助学問という位置づけにあった。つまり古典本文の解釈を補助する学問であり、研究テーマはことばの個別的な特殊事例の解明が主流であった。この名残は現在の日本語学の研究にも依然として認められる。しかし、科学が目指すのは事象の一般性の解明である。つまり、科学としてのことばの研究をするためには、計量国語学の素養がどうしても必要なのである。

科学的な言語研究者が一人でも多くなることを通して、科学的な言語研究がさらに発展していくことを願って本書は刊行された。